



並木中等story

令和5年1月6日号

1月6日に実施した全校集会での校長挨拶の抜粋です。

あけましておめでとうございます。私は日頃、皆さんの様子を見ていて並木中等の生徒には“素直で良い子”が多いなと思っています。その“素直で良い子”ですが、決して望ましい事だけではないのです。“素直で良い子”であるからこそ悩まなければならないことがあります。それに対するアドバイスです。まず、“**素直で良い子**”の**悩みで多いのが“誰かの価値観に揺さぶられていること”**です。先生から言われた、先輩から言われた、保護者から言われた。そのようなことで悩むことが多いのです。“素直で良い子”は周りの人の願い、要求も叶えたいのです。しかし、そのようなことは無理です。みんな一人一人、価値観が違うからです。そこでアドバイスです。まず、「自分のことは自分で決める」このことをしっかりと身につけてください。他の人から言われたことをすべて聞く必要はありません。参考意見ぐらいに聞くのがベストです。保護者との対立もあるでしょう。その時は互いに冷静な時に話し合うことです。甘えがあると感情的になったり、「もういい」と途中で断念することがあります。どうしても叶えたい夢ならば、時間をかけて粘り強く何度も相談することが大切です。それが出来ないようなら、それくらいしか思い入れがないということであきらめましょう。お願いする時は親しき者ほど、礼儀が大切なことも忘れないでください。

“素直で良い子”の2つ目のハードルは批判に弱いことです。多分、“**素直で良い子**”は**怒られたり、批判されることが少ないと思います**。だからといって、わざわざ、怒られることをしなくていいのですよ。並木中等生は大丈夫です。なぜかという、並木中等では課題探究のゼミなどで意見、批判を受ける練習もしています。まず、対立する意見は“私の成長の素”と考えてください。一発で素晴らしい探究が出来ることはありません。何度も何度も失敗して、その後に成功が待っています。対立する意見があつてこそ、伸びることができる。そして、新たな発見があると思ってください。「何か批判されたら、それは私の成長の素である」「褒められることだけだったら、それこそ裸の王様だ」と思ってください。並木中等の課題探究で鍛えた技はアメリカの大学でも有効であることを先輩方が示しています。自信を持ってください。

最後、3つ目です。素直で良い子は、**自分の感情を出せないことが多い。何かあった時に一人で悩んでいることが多いということです**。特に、自分の願いと行動が一致していない時は、どうしてですか。自分でじっと耐えていませんか。思いは話したり、書いたりして伝えることを勧めます。そのような相手がいない時はカウンセラー、相談室の先生に相談してください。話したり、書いたりすることによって、自分がどうしたいのかについて整理されます。心で考えていることと自らの行動が一致すること、これが心の健康なのです。それでは、皆さんの令和5年が充実した年になることをお祈りします。

次号は入学適性検査終了後の1月12日に発行します。